８　妊産婦・乳幼児

（１）　避難所で困ること

○　プライバシーを守れる場所（授乳室・オムツ交換室）が必要

○　妊婦は転倒するとかなり危険。特に階段を降りるときが危ない。

○　妊婦はトイレが近くなることがあり、かがむ必要がある和式トイレの利用が難しい。

○　妊娠初期の人は見た目でわかりにくいため、体調の悪化など見逃しやすい。

○　乳児のための必需品不足（粉ミルク・おむつ・おしりふき　など）

○　幼児が遊ぶスペースがない。

○　子供が複数いる人への支援不足

（２）　必要なもの・体制

・和式トイレしかない場合は、【洋式の簡易トイレ】を設置

・【粉ミルク】⇒ない場合はおもゆ（薄いおかゆの上澄みのこと）を活用

・【離乳食】　・【おむつ】　【乳幼児の着替え】

・【さらし】　⇒　「おんぶひも」や「ガーゼ」にも代用可能

・【更衣室・授乳室・育児コーナー】　⇒　福祉避難コーナーを活用

・【洗濯物を干す場所】（テントなどを活用する。）

・【医療機関】【助産師などの関係機関】との連絡連携体制を構築

（３）　災害直後の対応方法・考え方

○　避難環境の整備（ハード）

・　床にものがあったり、ぬれていると転倒の危険性があるので、床面の状況に常に注意する。

・　トイレが近い人はトイレに距離が短い場所をスペースとして確保する。

・　授乳室の設置が難しい場合、傘などを活用して目隠しを行うことも有効

○　対応方法（ソフト）

・　乳幼児のアレルギーを事前に家族に確認し対応する。

・　身体が冷えないようにカイロの活用などの対策を講じる。

・　おむつがない場合、タオルを代用する。

- おまるなどがない場合、バケツ（ない場合は買い物袋（ナイロン））に新聞紙やトイレットペーパーを濡らして入れて用を足す方法も有効
- クーラーボックスや衣装ケースなどを活用し赤ちゃんのお風呂として代用
- 哺乳瓶の煮沸消毒や薬液消毒ができない時は、不衛生な哺乳瓶は使用せず、使い捨ての紙コップなどを活用して少しずつ飲ませる。調乳でペットボトルの水を利用する時は硬水（ミネラルが多く含まれる水）は避ける。
- 不安な症状があれば、専門員などに相談する。
- 医療機関などの巡回診察を実施する。

（４）必要な専門員（避難生活が長期化する場合）

- 助産師　・　医療機関関係者　・　保健師　・　保育士

☆　少し気遣って・・・・

- 泣いている赤ちゃんがいた場合、「お互い様ですよ」など思いやりの心でご家族に接する。
- 男性には相談しにくい問題もあるため、妊産婦にはできるだけの女性の支援者が声をかけることが望ましい。
- 育児コーナー（福祉避難コーナー）は就寝場所から離れた場所（乳幼児の泣き声が聞こえないよう）にできるだけ早く確保し、両親や家族の心理的プレッシャーを和らげるように努める。
- 子どもが子どもらしく過ごせるように、おもちゃやおかしなどを確保し、居住スペース以外での遊び場を設ける。
- 子どもが危険な場所（物資置き場やゴミ捨て場など）に立ち入らないように、子どもにも危険な場所がわかるサインなどを活用し対応する。
- 子どもの夜泣きなどがあった場合、すぐに外に出ていけるよう動線（光るラインなど活用）を確保する。